
中国信息 (WTO/FTA・貿易・安全・その他)

2008年2月26日号

©2008年1月油糧・食用油市場観測情報

【中国農業部】

中国農業部は先ごろ、2008年1月における油糧・食用油市場の観測情報について発表した。その概要は以下のとおりである。

※ この記事は、中国農業部の了解を得て、独立行政法人農畜産業振興機構が翻訳提供しているものです。内容の一部または全部を転載等する場合は、資料元が当機構によるものである旨を必ず明らかにして下さい。

1 2007年の油糧、食用油輸入は増加、食用油輸出量は減少

海関統計によると、中国の2007年の油糧輸入量は、前年比8.8%増の3,186万トンとなった。うち大豆は9.03%増の3,082万トン、菜種は12.9%増の83.3万トンとなった。油糧輸出量は4.7%増の127万トン、うち落花生は3.6%減の63.8万トンとなった。また、2007年の食用植物油輸入量は、25%増の839.6万トンとなった。うちパーム油は0.26%増の510万トン、大豆油は83%増の282万トン、菜種油は7.5倍増の37.5万トンとなった。食用植物油の輸出量は、58%減の16.7万トンとなった。

2 2007/08年度の世界の油糧生産量は需要を満たさず、需給はひっ迫

米国農務省（USDA）の1月の予測によると、2007/08年度（2007年10月～翌年9月）の世界の油糧生産量は、前年度比4.1%減の3.897億トンと見積もられている。主な原因は、大豆の減産幅が6.5%と比較的大きかったことによる。世界の油糧圧搾量は2.8%増の3.409億トン、期末在庫量は5,324万トンで24.8%減と大幅に減少するものとみられている。

2007/08年度の世界の食用植物油生産量は、前年度比4.3%増の1.275億トン予測されている。うち大豆油は5.0%増の3,804万トン、菜種油は3.5%増の1,827万トン、パーム油は

8.6%増の4,020万トン、落花生油は1.0増の486万トンとみられている。植物油消費量は4.6%増の1.265億トン、期末在庫量は7.2%減の811万トンと見積もられている。

3 油糧・食用油の国際価格は小幅騰落しながら上昇、内外価格差は拡大

南米の大豆栽培地区の天候が安定し、生産量が増加すると予測されていることから、大豆の国際価格は高水準ながら下落した。ただし、原油価格の高騰やバイオエネルギーの強い需要の影響から、世界の植物油需要は増加の一途で、大豆油需給がひっ迫している状況が変わる可能性は低く、月内の価格は小幅に騰落しつつ上昇した。2008年1月下旬における南米の未精製大豆油のCNF価格（C&F価格、1990年の国際商業用語改正後はCFR価格：運賃込み価格＝FOB（本船渡し）価格＋運賃。以下同じ）は1トン当たり1,225ドルで、前月比12.6%高、前年同月比83.7%高となった。マレーシアのパーム油（融点24℃）の本船渡し価格（FOB価格）は1,055ドルで、前月比12%高、前年同月比68%高となった。世界の菜種需要は依然としておう盛で、菜種価格は堅調に推移している。カナダの菜種のCNF価格は610ドルで、前月比2.7%高、前年同月比51%高となった。

内外の価格を比較すると、カナダ産の輸入菜種の通関渡し価格（Duty Paid：CIF＋関税等）は、江浙（江蘇省および浙江省）地区の国産菜種の工場買取価格に比べ1トン当たり1千元以上高く、南米の未精製大豆油の通関渡し価格は、山東省の4級大豆油の平均工場出荷価格に比べ、同160元安かった。